

講座の趣旨

皆さん、学生と市民のための公開講座へようこそ！

今年度は、昨年度に引き続き、『現場からの法律学・政治学』の第3シリーズをお届けします。

法律学も政治学も、生々しい「現場」との多くの接点を持っています。学術的な研究が「現場」で起きている諸問題から示唆を受けることも多くあります。また、研究がそれらの諸問題を解決するための何らかの示唆を「現場」に提供できることもあるでしょう。「現場」と研究とのそれぞれの立場が交流し合うことは、それぞれにとって極めて有意義であるに違いないと私たちは考えました。

このような考えに基づき、この公開講座では、まずそれぞれの「現場」の第一線で実際に活動しておられる方から、現場の様々な問題についてご報告を頂きます。そして、そこで提示された課題について討論することを通じて、「現場」と研究との接点を探っていきます。

私たちの社会には、多くの困難な課題が山積しています。テレビや新聞などで、それらの報道に接しても、一体どこに問題の本質があるのか、我々はどういう視点からその問題を考えたらいいいのか、途方に暮れることも少なくありません。また、その課題の余りの困難さに、思わずそこから逃避したくなったりもします。しかし、私たち社会科学を学ぶ者は、その現実から目を背けたり逃避したりすることは出来ません。どんなに克服し難い困難があろうとも、それに立ち向かう強靱さと冷静さを、またそのための叡智を身に着けねばなりません。この講座では、そのような積極的な取り組みのための手がかりを皆さんに提供したいと考えています。

Hier stehe Ich. Ich kann nicht anders. (M. Luther)

ここに我は留まる。我、他に為し能わず。(マルティン＝ルター)